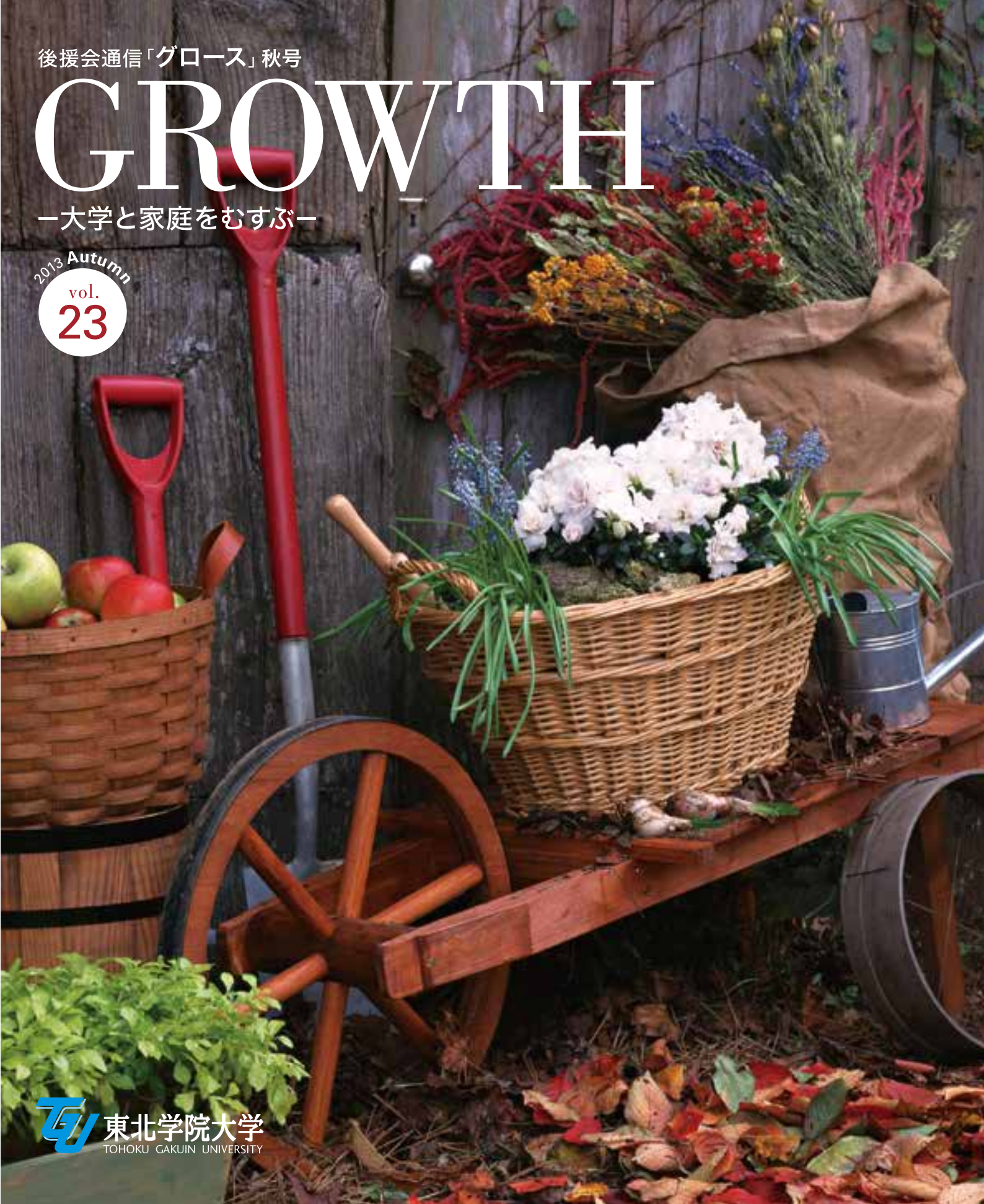
後援会通信「グロース」秋号

GROWTH

ー大学と家庭をむすぶー

2013 Autumn

vol. 23



東北学院大学
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

リレーインタビュー

12,000の瞳、12,000の輝き。

series 5

学生時代は、多くのことに出会い、
気づき、学んでいく成長の季節。
その姿には
一括りに語ることのできない
豊かで多彩な個性の輝きがあります。
今、興味をもっていること、
打ち込んでいるもの、将来の目標、
そして夢。
東北学院大生一人ひとりの
飾らない等身大の姿をご紹介します。

文学部 英文学科4年 渡部 佑紀さん

クールでかっこいいトリック(技)の陰には、擦り傷、切り傷の絶えない地道な練習アリ。キマった時の、達成感と爽快感を求めて。

渡部さんがスケートボード(以下スケボー)と出会ったのは、高校3年生の時。「友だちのお兄さんがやっていたんですけど、かっこよくって、おもしろそうだとすぐに飛びつきました。初めは借りて練習していましたが、そのうちコンプリートのデッキを手に入れて…」。デッキ?「はい、板のことをデッキというんです。それにトラック(板と車輪をつなぐ車軸)、ウィール(車輪)、ベアリングなどを組み上げた、初心者向けの完成品をコンプリートといいます。だんだん上達してくると自分のスキルやスタイルに合わせて各パーツを組み立てて、世界に一本だけのデッキをつくります」。「スケボーの醍醐味は、目標にしていたトリック(技)ができた時の達成感と爽快感にあると思いますが、練習はすごく地味です(笑)。怪我とも無縁ではいられないですし」。"基本にして、究極"といわれるのが、デッキごとジャンプするオーリーというトリックだそうで(写真参照)「これを練習していると スニーカーの側面(小指の下あたり)が摩擦で破れたり穴が開いたりするんです。街でこういうスニーカーを見かけると『ここにも仲間がいる』とうれしくなりますね」。クールでかっこいい技の陰には、靴が傷むほどの地道な努力があります。

●住宅メーカーからの内々定を受けている渡部さん。「家は、多くの人にとって一生のうちで最も高価な買い物ですし、夢をカタチにする機会でもあります。それをお手伝いできることをうれしく思います」

工学部 電子工学科3年 井上 健太郎さん

ロボットを「思う通りに動かす」ことは難しいけど、面白い!コンテストでの悔しい結果を糧に、来年のリベンジを誓う。

●相棒のロボット「風馬」とともに。卒業後は半導体メーカーへの就職を希望しているという井上さん。「工場見学に行き、様々な企業努力や現場の創意工夫の目の当たりにし、ものづくりの奥深さを知りました」。

大学では何か新しいことにチャレンジを、と思い入会した『ロボット研究会』。「名ばかりのサークルではなく、ちゃんと活動して実績を積んでいる点にも好感を持ちました(笑)」。ロボット研究会が目標に置くのは、年に一度開催される「知能ロボットコンテスト(主催:ロボット競技会実行委員会、メカトロで遊ぶ会、会場:仙台市科学館)」への参戦と上位入賞。本コンテストでのロボットは自律式。つまりスタートさせたあと、開発者たちは黙ってロボットの動きを見守るしかないのです。

「ロボットはハード(身体)、電子回路(神経)、プログラム(頭脳)という3つの要素がうまく組み合わされて始めて、目的の動作を行います。思う通りに動かすのは、簡単ではありません。特にセンサなどは外乱(通信系などに外から加わる不要な信号、雑音)などによって誤動作を引き起こしますから、いつもと違う環境で競技する難しさも加わります」。今年のコンテストには、4つのチームが挑みましたが、残念ながら決勝に進むことはできませんでした。「ロボット研究会の3年生は、大学祭でのデモンストレーションを最後に引退という慣例ですが、僕はサークルOBとして来年の大会に挑戦します」という井上さん。今年の悔しさを胸にリベンジを誓います。

教養学部 情報科学科 2年 清塚 栞さん

数学教員を目指して、教職課程もしっかり履修。目標とする背景には、素晴らしいロールモデル=恩師の存在。

卒業後の進路について「数学の先生を目指しています」と即答する清塚さん。教員への憧れ、そして目標を掲げる背景には、素晴らしいロールモデルの存在がありました。「中学の部活動(バレーボール)の顧問が、数学の先生でした。授業がとても面白くて、クラスはいつも盛り上がっていました。そして楽しいだけではなく、とてもわかりやすかったのです。元々、数学は得意科目でしたが、ますます好きになりました」。数学のどんなところに魅力があるのでしょう。「数学は解(かい)が一つというところでしょうか。国語

などは解釈によって、答えが違ってきたりしますよね。そこが釈然としないというか…(笑)。数学は、難しい問題であればあるほど、挑戦する意欲をかきたててくれます」。

教育職員免許状の取得に向けて、1年次から教職課程もしっかり履修。「高校の数学の先生が、偶然にも本学出身者でした。厳しい指導で知られていましたが、生徒一人ひとりに細やかな目を配る先生でした。教え方の違いで、理解の深さも違ってくると驚きました」。私もひとりよがりな授業をしないようにしなくては、と語る清塚さん。イメージトレーニングもばっちりです。

●サークルEHS(Extend Hobby Sports)の副会長を務める清塚さん。「夏合宿をまとめ上げなければならない立場にありましたが、みんな一致団結して協力してくれて、楽しく思いで深い合宿になりました」。

CONTENTS

01 12,000の瞳、12,000の輝き。 リレーインタビュー・5
03 SPECIAL ISSUE [特別企画] TG座談会:土田就職課長 × 長谷川さん母子、大槻さん父娘
05 後援会総会報告
06 地区後援会開催報告
07 CLOSE UP [同窓生インタビュー] 秋田テレビ株式会社 報道制作局 制作部 八代 星子さん
09 ゼミ・研究室探訪 文学部 歴史学科 佐川 正敏 教授
11 倶楽部拝見 女子ラクロス部
12 CAMPUS NEWS 第1回 東北学院大学・学長杯争奪「知的書評合戦ビブリオバトル」開催!
13 学務部より 学生部より 就職部より

微風に揺れる木々の葉も徐々に色づき始め、秋の深まりを感じさせる時節となりました。このたび、後援会通信「GROWTH(グロース)」の秋号が完成いたしました。東北学院大学後援会の会員の皆さまにお届けできますことを感謝しております。5月の後援会総会、7月〜9月の地区後援会も無事に終え、学生が円滑に勉学や課外活動に励むための支援も滞りなく進んでおります。今後も大学と家庭の架け橋となるような誌面となることを願っております。

TG座談会

土田就職課長 × 長谷川さん母子、大槻さん父娘

“就職活動に方程式はない”。多くの経験と出会いが、将来の道を拓いていく。

2014年卒の就職動向としては、前年同時期に比べて内々定率が上昇するなど、企業の採用意欲が向上していますが、一方で大卒求人倍率は横ばいであり、景気浮揚感は新卒採用に影響していないとの厳しい見方もあります。

今回は、学生さんと保護者の方をお招きし、就職にまつわるお話を伺いました。知的好奇心と行動力で自らの道を切り拓いている学生さんと、豊かな経験知を有する人生の先輩――非常に有意義な会談のひとときとなりました。

（2013年9月14日）

就職課長 土田 恵介

就活は、百人百様であってよい。

土田　本日はお忙しいところ、足をお運びいただき、ありがとうございました。4年生の長谷川貴希さんとお母様の純子さん、そして3年生の大槻成美さんとお父様の充さんにお越しいただいています。まずは長谷川さん、早々に内々定を受けられたのですよね、おめでとうございます。振り返ってみて就職活動はいかがでしたか？

長谷川（貴）　ありがとうございます。去年の夏休みは、インターンシップなどに参加している友人もいましたが、私はどんな仕事に就きたいのか、方向性を定めることができなかったんです。そこで思い切って、学生時代にしかできないことに挑戦しようと、タイへ個人旅行に出掛けました。言葉も通じない不案内な場所、しかも宿泊先も決めずに行き当たりばったりの旅でしたが、異文化の中で見聞を広げることができましたし、どこでもやっていけるという自信も養えました。この経験を、ことさらにアピールする必要はないけれど、学生時代のエピソードとして就職面接などで話すことができるかな、とは思いました。本腰を入れたのは、12月の会社説明会からです。

経済学部 経済学科 4年 長谷川 貴希さん

土田　なるほど得難い経験をされたんですね。しかし、送り出す方としてはいろいろと思うところがあったのではないでしょうか。

長谷川（純）　そうですね。ニュースなどでも新卒者の厳しい就職状況について報道されますから、息子はのんびり過ぎるのではないかと心配でした。でも、本人の意思がはっきりしていましたので、それを尊重して、送り出しました。

土田　私は「就職活動に方程式はない」と思っています。しかし、円滑に、無用な不安やストレスを抱かずに進めていくためのガイドラインはお示ししています。3年生の6月から始まる就職ガイダンス、インターンシップ説明会、企業リサーチ、業種・職種の研究、自己分析の方法や、エントリーシートの書き方、面接指導、卒業生の講演会…こうした一連の指導は本学就職課が長い伝統の中で培ってきたノウハウがあります。一方で、長谷川さんのように自身の意志と信念に従って、活動を展開する学生さんもいらっしゃる。頼もしいですね。

自己分析で、自分と向かい合う。

土田　3年生の大槻さんは、就職について強く意識し始める時期なのではないでしょうか？

教養学部 地域構想学科 3年 大槻 成美さん

大槻（成）　実は、将来どんな道に進みたいのか、自分の中ではっきりとした答えをまだ見出していません。この夏は、全国から1000名の学生が東京に集って、対話をするという3泊4日のイベント（Next Leaders Meeting 2013）に参加してきました。そこではワークショップを通じて、徹底的に自己分析を行い、他者にアウトプットしていくことに取り組んだのですが、他の学生は、将来の進路やビジョン、目的意識をはっきりと持っていて、非常にモチベーションが高いのです。圧倒されましたが、私にとっては自分を見つめ直す非常によい機会になりました。

大槻（充）　東京に行くとは聞いていたけど、イベントに参加していたの？知らなかった（笑）。新卒者の就職活動は、私たちの頃とは異なる様相を呈していて、時折、気の毒になるほどです。成美の兄も東北学院大学・工学部出身で、3年生の時から積極的に就活に取り組んでいたようです。幸いにも希望していた技術系の仕事に就くことができました。会社名ではいかにも理系の企業でも、実際の企業活動は文系の部署や業務があってはじめて成り立ちます。会社の業種にこだわらずに広い視野で選んでほしいと思っています。

大槻 充さん

土田　おっしゃる通りですね。日本型の一括採用は、職種などを特定せずに、学生のポテンシャルを重視した採用を行うのが特色です。コスト削減によって人材育成に注力しなくなった傾向があるにせよ、人を育てるという理念はまだ健在だと思います。そこで採用判断基準は何になるかというと、社会人としてのマナーや常識、パーソナリティでしょう。それらをしっかり備えた上で、自己分析を行い、どういう人間であるのかアピールしていく必要がありますね。

自分と未来は変えられる。

土田　職業観というものは身近なロールモデル（保護者）を見ているうちに、自然と養われていくように思いますが、いかがでしょう。

大槻（成）　これまでは父も兄も“理系の人”であり、私の進路決定にはまったく参考にならないと思い込んでいましたが、父の話を聞いて、会社という組織の中には理系の仕事も文系の仕事もあるということが理解できました。これからはしっかりと企業研究をして、自分の力を活かせる場を見つけていきたいです。

長谷川（貴）　私は父が転勤などで苦労しているのを見てきましたし、（転勤を）マイナス要素として捉えていました。しかし、父は「転勤にはプラスの側面もある。知らない土地での出会いや経験が自分を成長させてくれる」と助言してくれました。親からの言葉は、うるさいなーと思うことも度々ですが（笑）、やはり人生の先輩として勉強になります。

土田　“人生の先輩”のお二方からアドバイスをお願いします。

長谷川 純子さん

長谷川（純）　実は私も東北学院大学の卒業生です。就職活動をしていた1985（昭和60）年は、女性が差別されることなく男性と均等な機会と待遇が得られることを目指した法律が改正・整備されました（施行は1986年4月1日）。いよいよ四大卒の女性が自身の能力を発揮できる時代がきた、と期待していましたが、実際は女性の就業は“腰掛け”と見なされる傾向が続き、男女格差は根強かったのです。今、男性も女性も同じフィールドで競い合い、評価されているのをみると、心からよかったと思いますし、もっと果敢にチャレンジしてほしいと願っています。

大槻（充）　組織の中に身を置けば、人間関係の難しさとは無縁ではいられないでしょう。でも一方的な見方ではなく、多面的な捉え方をすれば、相手の違った面も見えてくるのではないでしょうか。もちろん精神的に負担をかけるほどの我慢は禁物ですが、一時的な感情で誤った判断をしないようにしてほしいですね。

土田　今の大槻さんのお話に関連しますが、四大新卒採用者の実に38％が入社3年以内に離職しています。「私がやりたい仕事ではなかった」とすぐに辞表を提出してしまうのは、働くことに対するイメージと覚悟が欠如しているという面もあるかと思います。収入を得るということは、きれい事だけで済むものではなく、時に泥臭いこともしなければなりません。

最後に、二人も含めて社会に飛び立つ学生諸君へエールとして「過去と他人は変えられないが、自分と未来は変えられる」という言葉を贈ります。

本日はありがとうございました。

対談の詳しい内容は**後援会ホームページ** http://www.tgu-kouenkai.org/ に掲載を予定しております。ぜひご覧ください！！

平成25年度 東北学院大学｜後援会総会｜次第

次第

日　時　平成25年5月25日（土）10時55分
会　場　東北学院大学泉キャンパス礼拝堂
司　会　後援会事務局長　齋藤 信二

1. 開　会 …… 司会者
2. 聖書朗読並びに祈祷 …… 宗教部長 佐々木 哲夫
3. 挨　拶 …… 会長 丸森 仲吾
   大学長 松本 宣郎
4. 議　事
   (1)平成24年度後援会庶務報告について …… 庶務担当理事 髙橋 祥允
   (2)平成24年度後援会収支決算報告並びに会計監査報告について …… 会計担当理事 小濱 良雅
   監事 白木 進
   (3)平成25年度後援会事業計画(案)について …… 庶務担当理事 髙橋 祥允
   (4)平成25年度後援会収支予算(案)について …… 会計担当理事 小濱 良雅
   (5)その他
5. 後援会役員紹介 …… 司会者
6. 閉　会 …… 同上

議長を務める丸森会長

総会の様子

泉キャンパスに、約1,000名の保護者をお迎えし、平成25年度の後援会総会並びに大学開放プログラムを開催いたしました。総会で審議されました内容は次のとおりです。

(1)平成24年度後援会庶務報告について

髙橋祥允庶務担当理事より、役員人事、平成24年度役員会、平成24年度後援会総会並びに大学開放プログラム、平成24年度地区後援会実施状況について報告があり、原案通り承認されました。

(2)平成24年度後援会収支決算報告並びに会計監査報告について

小濱良雅会計担当理事より報告があり、原案通り承認されました。白木進監事より帳簿等が正確に整備されていることについて報告がなされました。

(3)平成25年度後援会事業計画(案)について

髙橋祥允庶務担当理事より、平成25年度後援会総会、平成25年度地区後援会について説明があり、原案通り承認されました。

(4)平成25年度後援会収支予算(案)について

小濱良雅会計担当理事より説明があり、原案通り承認されました。

大学開放プログラムでは、毎年好評いただいております「学生の就職を考えるセミナー(講師:前田修也就職部長)」のほか、弁護士の菊地幸夫氏を講師に招いて「保護者と学生のための教養セミナー」を開催いたしました。会場の礼拝堂はほぼ満席となり、盛会裏に終えることができました。

学生の就職を考えるセミナー

保護者と学生のための教養セミナー

平成25年度 東北学院大学｜地区後援会｜開催報告

7月～9月にかけて、北は札幌市から南は東京都までの全24地区に本学教職員が出向き、東北学院大学の近況のご報告や個別面談などを行いました。

また、キャリアカウンセラーなどの専門の方を招いて、全地区で「学生の就職を考えるセミナー」を開催いたしました。昨今の就職状況について分析し、学生はどのように準備をしていけばよいのか、保護者はどのように関わっていけば良いのかなどについての内容で、保護者の方々の関心も強く、大変好評いただきました。次年度以降も、継続して開催していく予定ですので、保護者の皆さまのご出席をお待ちしております。

青森会場の様子

総会・地区後援会に参加された保護者の皆さまの声を一部ご紹介いたします

［総会］

●間近でパイプオルガンのコンサートが聴けてものすごく感動して鳥肌が立ちました。このようなすてきな音、すばらしい演奏が聴けて今日は大変幸せでした。ありがとうございました。(英文学科1年)

●図書館がきれいで普段見られない書物が多く、素晴らしかった。礼拝堂もパイプオルガンにステンドグラスでとても厳かで素晴らしかった。(経済学科2年)

●こちらの不安に思っていることを一つ一つ丁寧に説明してくださって安心できました。学生の事を暖かく見守って下さっていることに感謝しています。(電気情報工学科1年)

●東北学院大の就職状況が理解できた。できれば学生の体験談に基いたアドバイスや成功例、失敗例等も紹介してもらえれば参考になると思った。(経営学科4年)

［地区講演会］

●企業の選び方や企業が必要としている人事を知る事ができ、就職活動を行う上でとても参考になり、役立てていきたいと思いました。(法律学科1年)

●大学紹介ビデオは、学生からのレポートがあり、大学の施設について見させて頂き、知らなかった部分がわかりました。(言語文化学科3年)

●親身に話を聞いていただき、相談にのっていただき、ありがとうございました。今後もよろしくお願い致します。(歴史学科4年)

●後援会総会、地区後援会の両方に出席させていただきました。いろいろと参考になるお話をお聞きできて感謝致しております。今後ともよろしくお願い致します。(歴史学科1年)

●地方での後援会開催はとてもありがたいと思います。なかなか学生生活や就職情報がわからないことが多く、今後も継続いただけるよう願います。(経済学科1年)

後援会では、在学生の円滑な学生生活と大学の充実発展に寄与するため、“大学と家庭をむすぶ”をモットーに、各種事業を展開し、以下のような助成をおこなっております。

体育会、学生会、文化会等の課外活動団体への助成

東北学院大学緊急給付奨学金への助成

東北学院大学給付奨学金への助成

就職活動に対する助成
合同企業セミナー開催、職業人によるトークイベント開催、面接フォローアップ講座開催、企業研究講座開催、エントリーシート添削講座開催など

震災支援特別助成
東日本大震災緊急給付奨学金への助成

かつての憧れは、いま現実に。

高校時代に定めた目標、アナウンサーとしての日々。

入社から約半年。追い求めた職種に就いた八代さんは時折、不思議な感覚を覚えるという。「高校時代から見ていた憧れの存在と机を並べているのが、すごく変な感覚で。先輩に食事に誘われたりすると舞い上がってしまうことも」。当然といえば当然かもしれない。職場は生まれ育った地元の放送局、秋田テレビ。先輩や上司はテレビの向こう側にいた面々。狭き門をくぐり抜け、彼女はいま、憧れの存在と同じアナウンサーとして働いている。「とにかく東北でアナウンサーになりたいと思い、東北限定で採用試験を受けていました。最近では短いニュースのほか、イベントのMCやコンサートのアナウンスなども担当しています」。原点は高校時代。所属していた放送部で取り組んだ、地元の魅力を伝える番組制作にあった。自ら企画・取材し、作り上げたものを大会に応募して大勢の人に伝える。自身曰く、そこに「ハマった」のだという。そして、目標として定めたのがアナウンサーという職種。大学入学後も想いはぶれることなく、外部のラジオサークルに参加。そこでも地元に焦点を当てた番組制作に携わり、同時にコンサートのMCなど“話すアルバイト”で土台を築き上げてきた。そんな八代さんに理想とするアナウンサー像を聞くと、やはりと言うべきか、あの言葉が節々に散りばめられていた。「高校時代からなりたかったのは、地元を元気にする、地元密着の明るいアナウンサー。私はまだまだですが、自分という存在で地元に元気を与えられるのは、アナウンサーならではだと思います。そのためにも、もっと自分を磨いていきたいですね」。

10月4日にスタートした「SUPER jumpin'(スーパージャンピン)」は、八代さん初のレギュラー番組。毎週金曜日16時から、秋田県内での旅をメインに、視聴者の「見たい、行きたい、触れたい」を刺激する情報バラエティで、報道番組とも連携しながら最新のニュースの深堀りも。

とある面接で気づかされた、見失ってはいけないこと。

社内研修や東京での新人アナウンサー研修を経て迎えた、2013年7月10日、20時55分。それは、八代さんにとって一生忘れられない日時になった。「本当に緊張しました。わずか1分45秒のニュースでしたが、私にとってデビューの日。その時刻を迎えるまでがとても長く感じて。内容は小学生が海の水質調査を行った、というもので、記憶に残るニュースになりました」。最近では5分間のニュースも任されるようになり、10月からは初のレギュラー番組がスタート。その合間をぬって発声などの自主練習と、時間の経過とともに徐々に慌ただしさが増すなか、支えとなっているのが東京で3週間、ともに新人アナウンサー研修をした系列局の同期アナウンサーたち。「年代も職業も同じ人々と切磋琢磨した日々はすごく勉強になりましたし、大切な一生の仲間ができたのは大きな出来事でした」。声の幅や整え方、ニュースを読む時間の割り振りなど、アナウンサーとして一歩を踏み出したばかりでまだまだ課題も、不安もあるというが、伝え手として、一人の人間として、八代さんには大切にしていることがある。経験談を交えて挙げてくれたそれは、自分らしさ。「実は就職活動の際、自分らしさを見失っていた時期がありました。そんな矢先、ある面接で自分の故郷をフリートークする、というものがあり、考え過ぎずに話したところ『いきいき輝いていましたよ』という言葉をいただきました。そこで、自分らしくある大切さを改めて感じましたし、いま大学生活や就職活動に励んでいる皆さんも、自分らしく目標に向かってほしいと思います」。

information

SUPER jumpin'

【放送日時】10月4日スタート
毎週(金)午後4時〜4時50分
【放 送 局】AKT
【出 演 者】武田哲哉・石井資子・加藤未来
八代星子(秋田テレビアナウンサー)

金曜夕方に生放送で送る情報バラエティ番組。AKTアナウンサーが気になるスポットやグルメ、出会い求めて秋田県内外を探訪する。また、週末に行きたくなるような話題のスポットから生中継も。
視聴者の見たい・行きたい・触れたいを刺激する50分!

CLOSE UP

いつでも自分らしく、どこまでも地元と。

秋田テレビ株式会社 報道制作局 制作部
八代(やしろ) 星子(ほしこ)さん
秋田県立秋田北高校から東北学院大学文学部歴史学科に入学。2013年4月に秋田テレビ㈱入社。高校時代から目標としていたアナウンサーとして活動中。

倶楽部拝見

女子ラクロス部

メンバー勢揃い！
日に焼けた肌と笑顔のコントラストが魅力。

FORTIS。ラテン語で「強い」を意味する言葉であり、女子ラクロス部が今年4月に掲げたチーム名でもある。キャプテンを務める百井さんは言う。「コーチを含めみんなで決めた名前です。うちは例年、弱いチーム。とにかく強い集団をめざそう。ゆくゆくは、東北の女子ラクロス部といえば真っ先に名前が挙がるくらい、強くなろう。そんな想いを込めています」。シンプルかつストレートなチーム名には、現状を打破しようという想いが入り交じっていた。

ラクロスは日本ではまだメジャーなスポーツとは言い難い。それこそ東北という地で、部活のある高校は限られてくる。実際、現在のメンバーは大学から競技を始めたビギナーばかり。高校時代はサッカー部や卓球部、なかには帰宅部だった彼女らが、「新しい世界を」と飛び込んだのがラクロスだった。「全員が全員、初心者なので誰でも飛び込みやすい環境だと思います。活動のスタイルは、学年の垣根を越えて仲よく、楽しくプレーしながら優勝をめざすという考え方。大学で新しいスポーツに挑戦したい人には、ラクロスはぴったりだと思います」。百井さんが示した優勝とは、夏から秋にかけて行われる東北地区リーグのこと。栄冠をめざし週4回、例年以上の練習量で挑んだが、強さ、巧さはどうしてもある程度の経験を伴って向上するもの。競技経験の浅いメンバーだけでは優勝の2文字は遠く、残念ながら目標に手が届くことはなかった。

まだまだ弱い。誰もがその現状を受け止めているからこそ、脱却しようと対極にある言葉をチーム名にした。近い将来、本当の意味で周囲から「FORTIS（強い）」と呼ばれる日に向かい、彼女たちはひたすらスティックを振り続ける。

女子ラクロス部キャプテン
百井 温美さん
（教養学部 言語文化学科4年）

CAMPUS NEWS

第1回 東北学院大学・学長杯争奪
「知的書評合戦ビブリオバトル」開催！

ゲーム感覚を取り入れた新しいスタイルの知的書評合戦、ビブリオバトル。「第1回東北学院大学・学長杯争奪」と題された今回は、10月19日に中央図書館（土樋キャンパス）において開催されました。ビブリオバトルとは、立命館大学情報理工学部の谷口忠大准教授が考案し、その後全国各地の大学へ広まっていった「本を用いて人と人とを繋げ、人と知識を繋げる」知的遊戯です。ルールはとてもシンプルで、バトラー（発表者）が持ち寄ったそれぞれのお気に入りの本について5分間のプレゼンテーションを行い、本の面白さを伝えます。その後、他のバトラーや観客から質問を受け、本の内容について理解を深めます。最後に会場にいるバトラー、観客全員で「どの本が読みたくなったか？」を基準に多数決し、「チャンプ本」を決定するというものです。

当日は本学の学生3名、他大学からも3名の学生が参加し、計6名によりバトルが繰り広げられました。スライドやレジュメは一切使わず、自分たちの言葉で伝えるという点がビブリオバトルの醍醐味とも言えます。バトラーは自分のお気に入りの本の面白さを多くの観客に伝えようと、思い思いに熱く語っていました。

投票の結果、今回は本学文学部総合人文学科３年の藤田麻理子さんが紹介した『和菓子のアン』がチャンプ本に輝き、副賞として学長杯と豪華賞品が贈られました。また、本大会は「ビブリオバトル首都決戦2013宮城予選」を兼ねて行われたため、優勝した藤田さんは、11月4日に開催される「宮城・福島地区決戦」への出場権を手にしました。さらに、地区決戦のチャンピオンは11月24日に東京で開催される「首都決戦2013」に進出することになります。

優勝者に学長杯を贈呈する中川館長

優勝した本学文学部3年の藤田麻理子さん

バトラー全員での記念撮影

優勝　藤田 麻理子（文学部３年）
『和菓子のアン』―坂木 司
庄司 百華（経済学部３年）
『統計はこうしてウソをつく』―ジョエル・ベスト
髙桑 理史（教養学部２年）
『ぼくが葬儀屋さんになった理由』―富安 徳久
立川 遼（東北大）
『あゝ祖国よ恋人よ』―上原 良司
戸澤 香奈（宮教大）
『古典力』―齋藤 孝
武者 誠彦（宮教大）
『あらしのよるに（１）』―きむら ゆういち

学務部より

キャップ制と「単位の実質化」

学務部長
千葉 昭彦

大学は勉強するところなので、授業をたくさん受講することは勧められることであって、逆に受講数を制限することは、熱心な学生の学修意欲を削ぐことになる…との声が聞こえてくることがあります。

大学の授業には取得単位がありますが、1単位は45時間の学修を必要とする内容を意味します。ですから、半期（15回）の授業で2単位取得すると言うことは、授業を含めて全部で90時間の学修をして、その内容を身につけていることを意味します。とは言え、これまでは多くの場合、1単位＝45時間の学修と言ったことはあまり考慮されず、とにかくその授業の試験に合格すれば単位は取得できるとされてきました。そのため、「今年はがんばったので年間で60単位取得！」などという話も聞かれました。そして、このような風潮の中で「単位をそろえて卒業したが授業では何も身につかず、4年間で一番ためになったのはサークル活動とアルバイト！」などと言われたりしていました。

この単位取得の意味を実質化して、1単位当たり45時間の学修を必要となる内容にするのが今日の大学改革の柱の一つです。そのためには講義等の前後での準備やレポート作成などが課され、相当の学修量が必要になります。例えば、2単位の授業ならば1回当たりでは授業を含めて6時間の学修時間が必要になりますし、そのような授業が1日に2コマ入っているならば、授業を含めて12時間の学修が求められます。となると、数多くの授業を受けること自体困難なことです。

「登録した授業はきちんと学修しよう。」これが、キャップ制と「単位の実質化」が意味するところになります。

学生部より

学生の健康管理

学生部長
石塚 秀樹

大学の3キャンパス（土樋、多賀城、泉）には、それぞれ保健室が設置され、常勤の保健師が学生の健康を見守っています。今回は、学生の健康に関して目立つ点などを、最近のデータを基にお伝えしたいと思います。

保健室の業務は、定期健康診断の実施と事後指導、病気や怪我などへの対応、校医の先生を中心にした健康相談、喫煙や飲酒に関する健康教育、就職や大会参加用の健康診断証明書の発行等があります。

定期健康診断の受診率は97～98％あります。有所見率が高い検査項目は、太りすぎ、脂質、血圧、肝機能などです。特に、男子学生に多くみられます。これには、不規則な生活、偏った食事、運動不足などが背景として考えられます。本人が気づいていない生活習慣の見直しなどをアドバイスしています。

保健室の利用状況では、応急処置、検診の事後指導、検査、測定、健康相談の順番になっています。症状別に見ますと、感冒、創傷一般、胃腸症状、頭痛、打撲・捻挫、気分不快、生理痛が多いようです。また、精神的不調で保健室を繰り返し利用する学生もいますので、カウンセリングセンターと連携を密にしながら対応しています。

また、大学は平成25年4月1日から学内全面禁煙になり、禁煙支援の強化を図っています。禁煙に関心のある学生は、保健室を積極的に利用して、社会人になる前に卒煙してほしいと願っています。

今後も、健康であることの大切さや健康診断の重要性を訴え、セルフケア能力向上のお手伝いをしていきたいと考えています。

就職部より

保護者のための就職セミナー（3年生対象）開催

就職部長
前田 修也

全国的にも就職環境の厳しい中、お蔭様をもちまして、本学は2年連続で就職率の大幅改善を成し遂げ、「真に就職に強い東北学院大学の復活」まであと一歩のところまで来ることが出来ました。これも、後援会様の物心両面にわたる温かいご支援・ご協力の賜物と感謝しております。

この冊子が皆様のところに送付される頃には、現3年生もそろそろ就職戦線に突入する時期ではないかと思います。

本年12月1日のいわゆる就職活動解禁日を2週間後に控えた11月17日（日）、本学として初めての試みである「3年生・保護者のための就職セミナー」を開催します。就職部では、学生一人一人が希望通りに就職等の進路決定が出来るように、日頃からきめ細やかな支援を行っておりますが、その一環として、学部学科の教員と保護者の皆様とが一緒になって、学生の就職を考えていく機会としてこのセミナーを企画・開催いたしました。

当日は泉キャンパスを会場に、第一部では、学長挨拶、就職部長による「本学の就職状況」に続き、就職環境の説明と保護者ができる就職支援について、HR総合調査研究所所長の寺沢幸助氏による「2014・5年新卒採用の大胆予測」と題する講演があります。続く第二部では、各学部学科に分かれて、学部長、学科長、就職部副部長、就職委員さらにはグループ主任の先生方による、「学部学科の就職状況」、「教員との個人面談」、そして内定を得ている4年生からの「先輩就活体験談」などの、より個別的、懇切な相談会が行われます。参加頂く予定の500名余りの保護者の皆様からは、多くのご質問やご意見を頂き有意義な相談会にしたいと願っております。

われわれは、決して学生を一人で就職戦線に送り込んではいけない、という信念を持っています。常に、保護者と大学が一丸となって、就活生に寄り添うことで、この厳しい就職冬の時代を乗り切って参りたいと存じます。今後とも、本学の就職支援に温かいご支援のほど、お願い申し上げます。

尚、このセミナーの前日（11月16日）、工学部でも恒例の「3年生・保護者のためのセミナー」を開催する予定です。あわせてお知らせいたします。

後援会ホームページのご案内

東北学院大学後援会のホームページでは、後援会の最新情報をお届けするほか、後援会総会・地区後援会のご案内、後援会通信のバックナンバーなど随時更新いたします。

http://www.tgu-kouenkai.org/

平成25年度 東北学院大学後援会　役員名簿

平成25（2013）年4月1日現在

任 期（平成24年～平成26年）

●**会　長** …… 丸森仲吾（仙台市）
●**副会長** …… 三島卓郎（仙台市）・後藤久幸（仙台市）
●**庶務担当理事** … 髙橋祥允（仙台市）
●**会計担当理事** … 小濱良雅（仙台市）
●**理　事** …… 寒河江満子（仙台市）・佐久間敬子（仙台市）・村山令記（仙台市）・齋藤靖（仙台市）・今野文昭（仙台市）・庄子真由美（仙台市）・武内宏之（石巻市）桂 久（札幌市）・成田智典（青森市）・松本宏（八戸市）・小野寺久美子（秋田市）・深澤禎彦（横手市）・工藤敏納（盛岡市）・及川和夫（北上市）浦島康弘（大船渡市）・金子泰雄（山形市）・鈴木信一（酒田市）・國分容子（福島市）・只野裕一（相馬市）・福井丈夫（新潟市）

●**監　事** …… 白木進（仙台市）・浅野ひとみ（仙台市）・菅野雅之（仙台市）
●**顧　問** …… 平河内健治・星宮望・松本宣郎
●**参　与** …… 佐々木俊三・齋藤誠・辻秀人・原田善教・菅山真次 髙木龍一郎・伊達秀文・佐久間政広・日野哲・佐々木哲夫 千葉昭彦・植松靖夫・石塚秀樹・前田修也・中川清和 佐々木郁子・松澤茂・木村安博
●**事務局長** … 齋藤信二
●**事務局員** … 武田三子雄・佐藤光男・丹野光雄・横山伸一・小原武久 二階堂哲・土田惠介・菅井研・駒板高明・渡邊義春 草野正聡

ORGANIZATION 教学組織図

平成25（2013）年4月1日現在

大学院

- **文学研究科**（博士課程）
  - 英語英文学専攻
  - ヨーロッパ文化史専攻
  - アジア文化史専攻
- **経済学研究科**（博士課程）
  - 経済学専攻
- **経営学研究科**（修士課程）
  - 経営学専攻
- **法学研究科**（博士課程）
  - 法律学専攻
- **工学研究科**（博士課程）
  - 機械工学専攻
  - 電気工学専攻
  - 電子工学専攻
  - 環境建設工学専攻
- **人間情報学研究科**（博士課程）
  - 人間情報学専攻
- **法務研究科**（専門職学位課程）
  - 法実務専攻

学部

- **文学部**
  - 英文学科　昼間主コース・夜間主コース
  - 総合人文学科
  - 歴史学科
- **経済学部**
  - 経済学科
  - 共生社会経済学科
- **経営学部**
  - 経営学科
- **法学部**
  - 法律学科
- **工学部**
  - 機械知能工学科
  - 電気情報工学科
  - 電子工学科
  - 環境建設工学科
- **教養学部**
  - 人間科学科
  - 言語文化学科
  - 情報科学科
  - 地域構想学科

宗教部

図書館

- 中央図書館
- 中央図書館分室
- 泉キャンパス図書館
- 多賀城キャンパス図書館

博物館

研究所など

- 英語英文学研究所
- ヨーロッパ文化研究所
- キリスト教文化研究所
- 宗教音楽研究所
- 東北文化研究所
- 東北産業経済研究所
- 経営研究所
- 社会福祉研究所
- 法学政治学研究所
- 教育研究所
- 工学総合研究所
- 人間情報学研究所
- アジア流域文化研究所
- オーディオ・ヴィジュアルセンター
- カウンセリング・センター
- 情報処理センター
- 教職課程センター
- 産学連携推進センター
- 工学基礎教育センター
- 災害ボランティアステーション

東北学院大学

土樋キャンパス
大学院：文学研究科、経済学研究科、経営学研究科、法学研究科、法務研究科
学　部：文学部・経済学部・経営学部 法学部（各3・4年）、夜間主コース
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
tel 022-264-6421（総務課）
fax 022-264-3030（　〃　）

多賀城キャンパス
大学院：工学研究科
学　部：工学部
〒985-8537 多賀城市中央1-13-1
tel 022-368-1116（庶務係）
fax 022-368-7070（　〃　）

泉キャンパス
大学院：人間情報学研究科
学　部：文学部・経済学部・経営学部 法学部（各1・2年）、教養学部
〒981-3193 仙台市泉区天神沢2-1-1
tel 022-375-1121（庶務係）
fax 022-375-4040（　〃　）

東北学院大学後援会通信 GROWTH（グロース）vol.23

■本誌に関するご意見・ご要望をお待ちしております。

発行日／平成25（2013）年10月
編　集／東北学院大学後援会事務局（総務部総務課内）
発　行／東北学院大学後援会　〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 tel 022-264-6411 fax 022-264-3030
E-mail kouenkai@staff.tohoku-gakuin.ac.jp　URL http://www.tgu-kouenkai.org/
印　刷／ハリウコミュニケーションズ株式会社

○GROWTH（グロース）の意味は、「成長する」です。聖書には、「どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」（マタイによる福音書13章32節）、また、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」（コリントの信徒への手紙一3章6節）と記されています。東北学院大学の学生の皆さんが各分野において、知識や技術、教養を充分に修め、神と人に祝されつつ大きく成長するようにという期待が本誌に込められています。

【本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて】本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。
【「個人情報保護法」への取り組みについて】平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が施行されたのに伴い、東北学院大学後援会では個人情報の取り扱いについて、学校法人東北学院が制定した「学校法人東北学院個人情報保護規程」にのっとり、個人情報の適正な管理と保護に努めています。後援会事務局では、東北学院大学後援会の運営に必要な皆様の個人情報をお預りしていますが、今後も個人情報保護法に基づき慎重に取り扱って参りますので、皆様方のご理解・ご協力をお願いいたします。なお、後援会事務局で使用する個人情報の利用目的は次の通りです。
●「保護者のための大学ガイド」並びに「後援会通信"グロース"」の発行・送付　●「後援会総会」並びに「地区後援会」の案内　●その他、上記に関連する業務

RICE INK　GROWTHは、地産地消・輸送マイレージに配慮したライスインキを使用して印刷しています。